

5 大きく変わったポイント…2018年度

市教委の学校教育指針をもとに、各学校が教育指導の計画を作成（2012 以前）



市教委が「学校運営の指針」を示し、各学校は「運営に関する計画」を作成する

『めざすべき目標像』

すべての子どもたちが学力を身につけながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し、他者とともに次代の社会を担うようになることをめざす。そのために、社会が多様化し激しく変化する中で、国際化の進展や未曾有の災害の発生を踏まえ、子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備えるようにする。

『基本となる考え方』

「一人一人の子どもを、個人としての尊厳を重んじ、その意見を尊重するとともに、自由と規範意識、権利と義務を重んじ、自己の判断と責任で道を切り拓き、真理と正義を求め、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備え、グローバル化進む国際社会において力強く生き抜くことができる人間としてはぐくむこと」「子どもたちが、我が国と郷土の伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた国と、自らが育ったこの大阪を愛し、大阪にふさわしい新しい文化の創造をめざすようになること。

『最重要目標』

- (1) 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現
- (2) 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上



『最重要目標』をふまえた『全市共通目標』

(1) について

- ・ 学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上
- ・ 小学校経年調査（校内調査）の『学校のきまり・規則を守っていますか』の項目に肯定的に答える児童（生徒）の割合を○%以上
- ・ 暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）の割合を前年度より減少
- ・ 新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少

(2) について

- ・ 小学校学力経年調査（中学生チャレンジテスト）における標準化得点を前年度より向上
- ・ 小学校学力経年調査（中学生チャレンジテスト）における正答率（得点）が市平均（府平均）の 7 割に満たない児童（生徒）の割合を前年度より○ポイント減少
- ・ 小学校学力経年調査（中学生チャレンジテスト）における正答率（得点）が市平均（府平均）を 2 割以上上回る児童（生徒）の割合を前年度より○ポイント増加
- ・ 小学校学力経年調査（校内調査）における『学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか』に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を前年度より増加

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画指標）の向上に向けて体力向上に係る目標を各学校ごとに必ず設定



各学校は、「大阪市教育振興基本計画」が掲げた大阪市全体の数値で示した『全市共通目標』に対して、自分の学校がどう貢献するのかという観点で現状を分析し、数値目標を立てる。